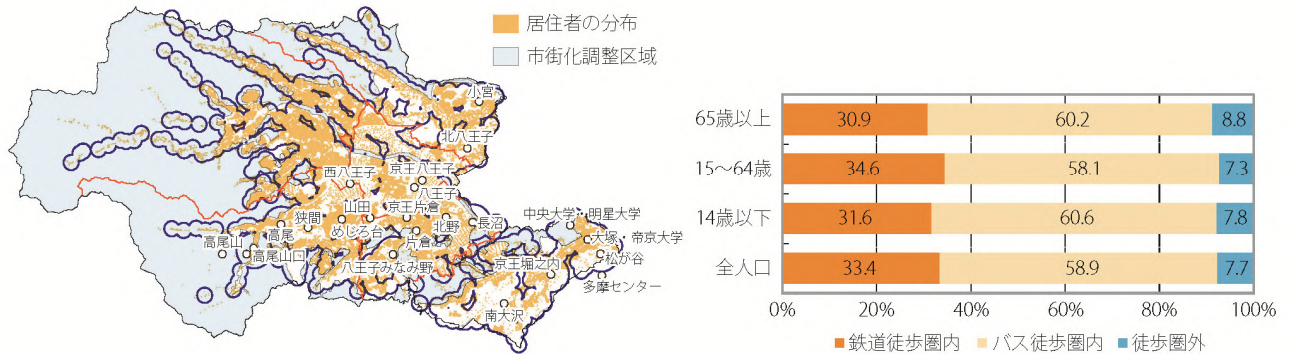


(2) 公共交通

市内の公共交通機関がカバーする人口を見ると、高齢者の8.8%が、公共交通機関カバーエリア外に居住しています。

また、本市の代表交通手段の分担率を地域別に見ると、主な交通手段としての鉄道利用が増加している地域が多いものの、西部地域をはじめとして自動車の依存度が高い地域があります。

今後は、自家用車を運転できない高齢者など、交通弱者の増加により、自家用車から公共交通への転換が考えられることから、日常生活の移動を支えるためにも、人口減少下における路線バスの維持が必要となります。



注 鉄道駅までの徒歩圏(歩行速度(約70m/分)と歩行時間(10分圏内)から、鉄道駅までの徒歩圏は約700mと設定。) バス停留所までの徒歩圏(バス停留所までの徒歩圏の多くは、5～8分程度の歩行時間として設定されており、歩行速度(約70m/分)と歩行時間(5分圏内)から、バス停留所までの徒歩圏は約300mと設定。)

図 公共交通機関エリアの居住者分布と年齢別人口割合
出典:住民基本台帳(平成24年)、八王子市資料より作成

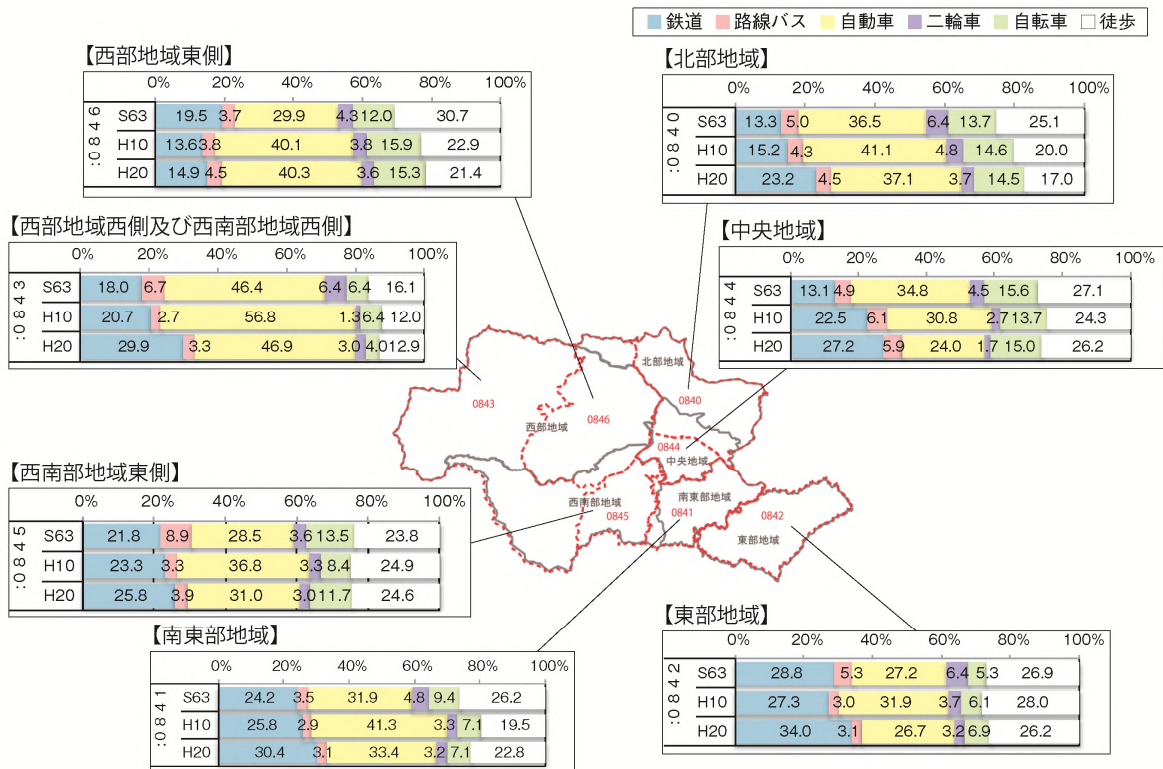
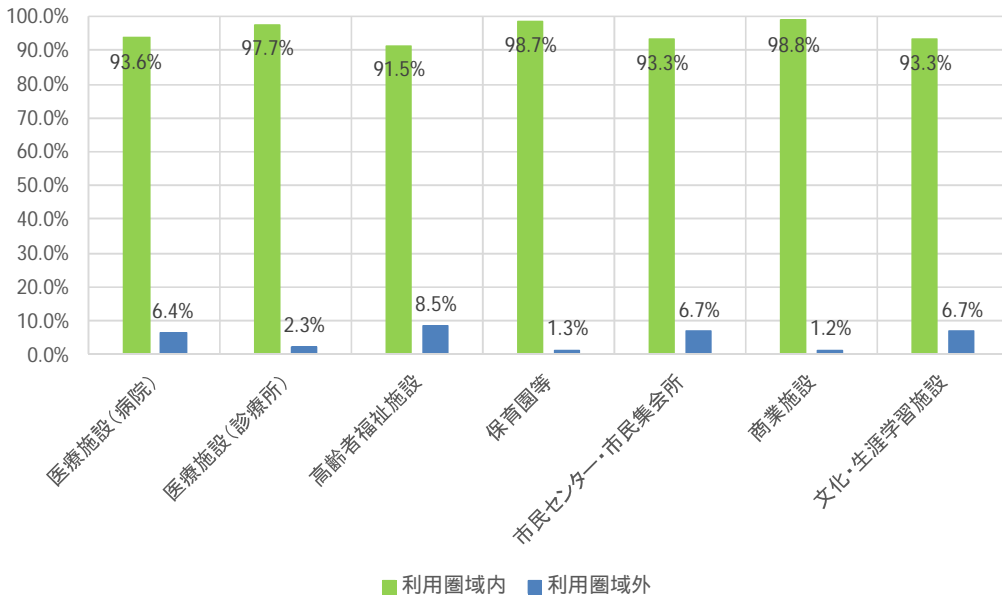


図 地域別代表交通手段分担率
出典:東京都市圏パーソナルトリップ調査より作成

(3) 都市機能

日常生活に必要な都市機能の利用圏域の人口割合を見ると、本市では路線バスネットワークが充足していること、また、公共交通機関カバーエリア外における施設立地があることから、都市機能へのアクセスが一定程度確保されています。



注 保育園等は、5歳未満の居住者、その他の機能は、65歳以上の高齢者の人口割合を示しています。

高齢者福祉施設の利用圏域は、訪問系施設であることから車で利用が主であると想定し、各施設から1km圏と設定。

医療施設、保育園等、市民集会所・市民センター、商業施設、文化・生涯学習施設の利用圏域は、徒歩または公共交通の利用を前提とし、各施設から700m圏または公共交通カバーエリア内と設定。

図 日常生活に必要な都市機能の利用圏域人口割合 出典:住民基本台帳(平成24年)、八王子市資料等より作成

都市拠点における用途別床面積による都市機能の割合を見ると、特に、日常生活に必要な厚生医療施設、専用商業施設の集積が少ない地域があります。

今後は、公共交通を利用しやすい環境を整えながら、路線バスの維持との相乗効果として都市拠点の機能強化が必要となります。

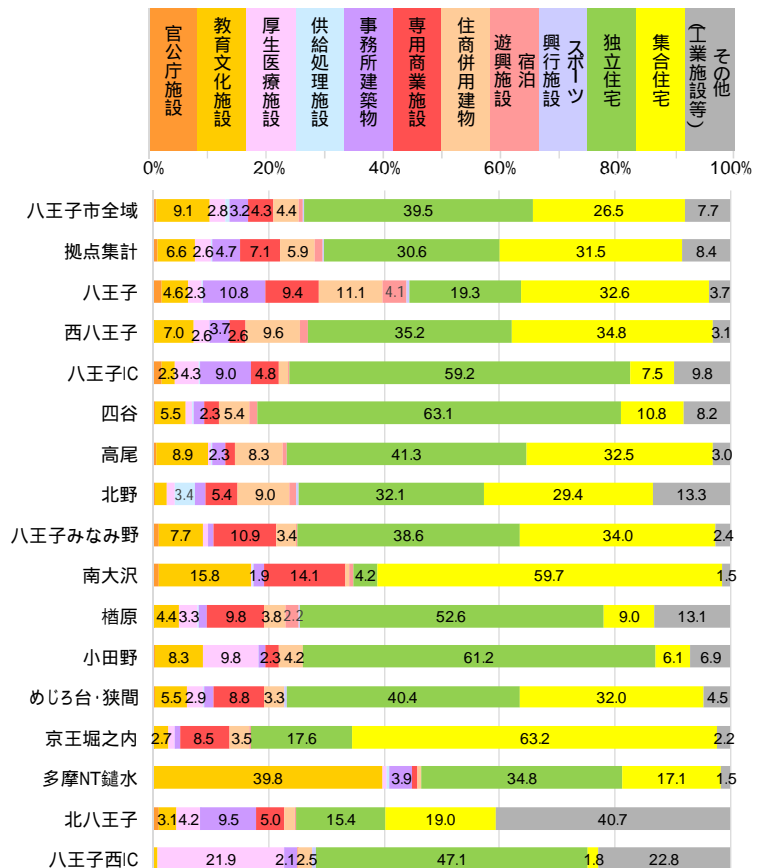


図 都市拠点における都市機能の割合 出典:東京都土地利用現況調査(H24)より作成

注 八王子は、JR八王子駅から1km圏内、その他拠点は、鉄道駅やバス停から800m圏内の施設を集計。

(4) 都市経営

本市の歳入を科目別に見ると、人口の増加傾向と比較して市税は伸び悩んでいます。また、歳出を性質別割合で見ると、扶助費が増加しています。

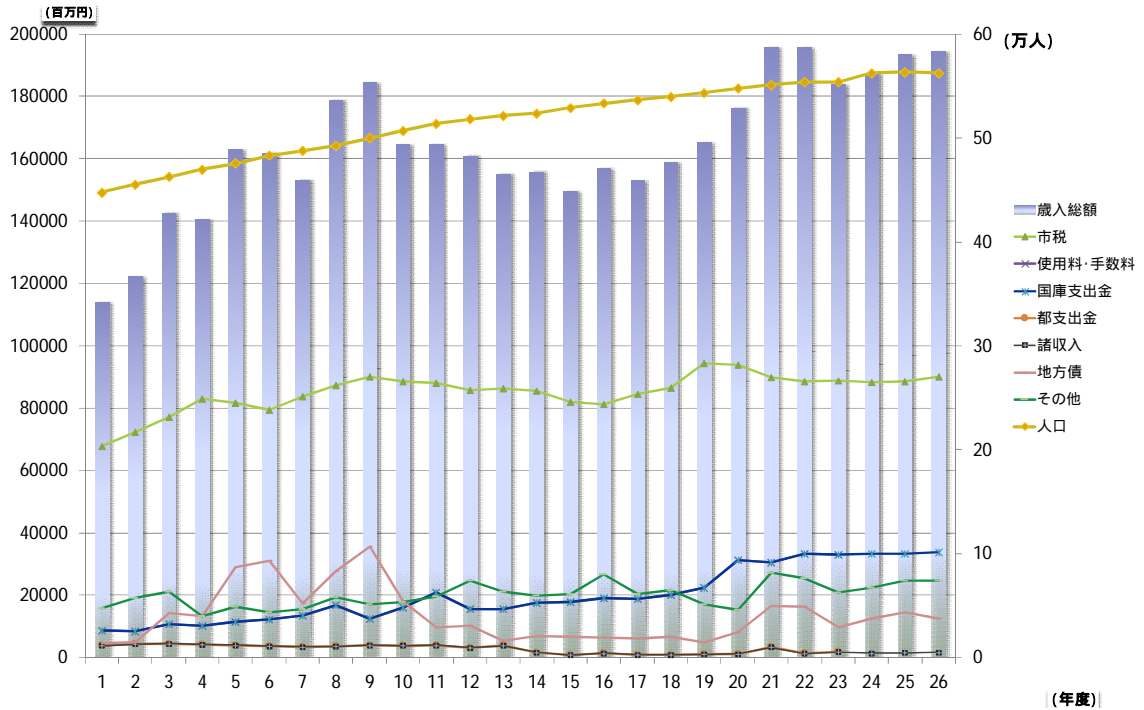


図 歳入と人口の推移 出典：八王子市財政白書より作成

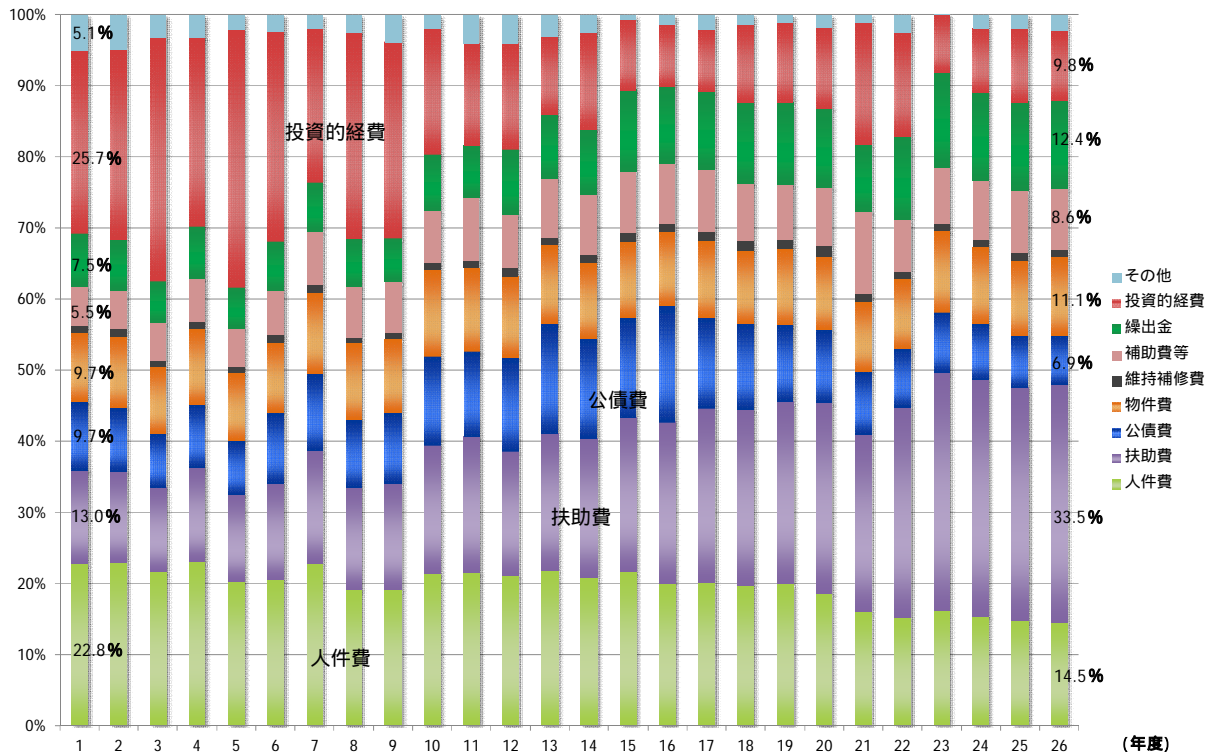


図 歳出の性質別割合の推移 出典：八王子市財政白書より作成